

2008年5月14日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、一部に減速の動きがみられるが、基調としては緩やかに拡大している。

すなわち、輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加している。設備投資は、企業収益が伸び悩みつつある中、一部に増勢鈍化の動きがみられるが、全体としては増加している。雇用情勢は改善を続けており、個人消費は底堅く推移している。他方、公共投資は低調である。こうした中、生産は、足もと概ね横ばいとなっているが、基調としては緩やかな増勢にある。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、国・地方公共団体の緊縮姿勢を背景に、低調である。

輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加している。

3月の輸出をみると、米国向けが減少しているが、全体としては、化学、鉄鋼を中心に増加した。

設備投資は、企業収益が原材料価格上昇の影響などから伸び悩みつつある中、一部に増勢鈍化の動きがみられるが、全体としては増加している。

すなわち、製造業では、能力増強や生産性向上に向けた投資など、非製造業では、物流・営業拠点の整備などから、それぞれ増加している。

個人消費は、底堅く推移している。

3月は、百貨店の売上高が衣料品を中心に減少したが、スーパーの売上高は飲食料品を中心に増加した。家電販売は、薄型テレビ、DVD デッキなどのデジタル家電やエアコンを中心に増加している。乗用車販売は、新型車効果から幾分持ち直している。また、外食売上高は堅調に推移しているが、旅行取扱高は、海外旅行を中心に弱めの動きとなっている。

住宅投資は、改正建築基準法施行の影響から減少した後、徐々に持ち直している。

3月の住宅着工は、持家、分譲、貸家いずれも前年を下回った。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、足もと概ね横ばいとなっているが、基調としては緩やかな増勢にある。

3月の生産指数は、一般機械、輸送用機械を中心に減少した。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢は、企業の人員不足感がみられる中で、改善を続けている。

雇用者所得は、賃金に一部弱めの動きがみられるが、基調としては底堅く推移している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、プラスで推移している。

5. 企業倒産

企業倒産は、中小企業の倒産件数が幾分増加している。

6. 金融情勢

預金残高は、緩やかな増加が続いている。

貸出残高は、小幅ながら前年を下回って推移している。これは、地域金融機関で、住宅ローンや不動産関連等の貸出が増加している一方で、大手銀行で、大企業を中心とした資金調達の多様化・効率化の動きなどから、貸出が減少していることによるものである。

預金金利は横ばいで推移している。貸出金利は、足もと若干低下している。

以 上